

2014年度
関西学院大学ロースクール
B日程

一般入試（法学既修者）

商 法 問 題

《10:00～12:00》

○開始の指示があるまで内容を見てはいけません。

【商 法 問 題】

次の問いに答えなさい。

甲株式会社（以下、「甲社」とする）の代表取締役であるAは、最近カジノに凝り、甲社から数回にわたって借入れを行い、それをカジノに費やしていた。甲社は取締役会設置会社であるが、Aへの貸付けについて取締役会で承認をしたことはなく、Aの甲社からの借入額はすでに5,000万円に達していた。甲社の他の取締役BとCおよび監査役Dは、この事実を甲社の経理担当者からの情報で知ることになった。なお、甲社の総資産額は20億円である。

Aの資力から判断して、甲社がAから5,000万円を回収できるかどうか心配される状況であり、さらに、Aはカジノ遊びのために会社から借入れを繰り返すおそれもある。そして、このような状態が続けば、会社は甚大な影響を受けることにもなることが予測できる。取締役B・Cおよび監査役Dは、Aがこれ以上の借入れを行うことを止めさせたいと考えている。そのために、B・CおよびDが取り得る会社法上の方法としてどのようなことが考えられるか。会社法の条文を挙げながら説明しなさい。

Aは、その後、カジノの負けが増え、今度は1,000万円の借入れが必要になった。今回は、Aが取締役BとCに甲社から1,000万円を借りたいとの希望を伝えたことから、甲社からAへの貸付けを取締役会で審議することになった。BとCは、Aは今回の1,000万円を返済することは難しいと思ったものの、日頃のAのワンマンぶりに抗しきれず、取締役会では、担保も取らずに貸付けることに承認してしまった（なお、Aは議決には加わっていない）。そして、結局、Aは今回の貸付金1,000万円の返済ができず、甲社は1,000万円の損害を被ることになった。取締役BおよびCは、甲社が被った1,000万円の損害について、賠償責任を負うか。